

英語多読の実践が英語運用能力の向上にもたらす具体的効果

—「英検 Can-do リスト」を通して—

山口県／徳山工業高等専門学校 准教授 高橋 愛

概要

直読直解ができる英語で書かれた図書を大量に読むという英語多読の実践が、リーディングおよびリスニングの能力の向上に効果があることは先行する事例で指摘されてきた。しかし、スピーキングとライティングに対する効果や多読の実践で修得される具体的なスキルについては、検証が進んでいなかった。本研究では、英語運用能力を測る指標として「英検 Can-do リスト」を用い、継続的な多読の実践がどのような英語運用能力の向上をもたらすかを検証した。徳山高専本科2年生に多読授業を実施し、授業開始から6か月後と11か月後に英語使用に対する自信について問うアンケート調査と、多読授業導入の前後に実力試験を実施し、その結果を分析した。アンケート調査と実力試験の結果から、英語多読の実践がリーディングとリスニングの能力の向上につながっていること、スピーキングとライティングの能力の向上にも効果をもたらす可能性が高いことを確認した。

てきた。その一方で、英語および英語圏の文化への関心の強い学生は、英語学習に対する意欲も高いことがわかっている (Kunishige, Takahashi, & Harada, 2011)。本校では、学生の英語および英語圏の文化に対する関心を高め彼らを英語学習へと向かわせる方法として、豊田工業高等専門学校などで成果を上げていた英語多読 (以下多読) に注目し、平成22年度に本科3年生 (現本科5年生) の授業で導入した。その年度に実施した英語学習に関する意識調査と外部実力試験 (ACE テスト) の結果から、多読の実践には、学生の英語学習に対する意欲および英語力の向上をもたらす可能性があることが確認されている (Takahashi, Kunishige, & Harada, 2012)。

本校のものも含め、多読授業の実践例では、適切に多読を行うことによってリーディングおよびリスニングの能力が向上するということが、TOEIC などの実力試験のスコア変化を通して実証されている。しかし、スピーキングやリスニングの能力に対する多読の効果は、受講者のエピソードあるいはコメントとして言及されるにとどまっている (高瀬, 2010, 33-44)。そこで本研究では、学生の英語運用能力を測る指標として「英検 Can-do リスト」に注目し、多読の継続的な実践が、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングのすべての能力に対して具体的にどのような効果をもたらすのかを検証する。

1 はじめに

徳山工業高等専門学校 (以下本校) では、入学後に英語力が伸び悩む学生が少なくなく、英語教育にかかわるプログラム全般の改善が長らく課題となっていた^(注1)。本校学生の英語力の低迷は、英語学習に対するモチベーションの低下と連動していることが確認されている。本校において、英語学習に対する学生のモチベーションの低下は、本科2年次 (高校2年生に相当) での中だるみや、学年進行とともに顕著となる学習態度の二極化という形で現れ

2.2 アンケート調査

本校では外部実力試験を毎年実施しており、その試験の結果を分析すれば、多読の継続的な実践が学生の英語運用能力にもたらした効果を探ることは可能である。しかし、この試験ではスピーキングとライティングの能力の変化を調べることはできない。また、試験で実力が試されるリーディングとリスニングに関しても、具体的にどのようなスキルを学生が身につけているのかを見極めることは難しい。そこで、多読の継続的な実践が学生の英語運用能力にもたらした具体的な効果を調べるため、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングのすべての分野について自信をもって行える事柄を問うアンケート調査を、平成23年10月（多読授業導入から約6か月後）と平成24年2月（多読授業導入から約10か月後）に実施した。

アンケートでは、「英検 Can-do リスト」^(注6)の準2級と2級の「Can-do 表現」を質問項目として利用し、学生が自信をもってできることを尋ねた。「英検 Can-do リスト」を採用したのは、英検が一般的な日本人英語学習者の状況を考慮・反映した試験であることから、大学受験やビジネスといった特定の動因がない環境で英語を学習している本校低学年の学生の英語運用能力を測るのには最も適した指標であると判断したためである。また、質問項目として準2級と2級の「Can-do 表現」を採用したのは、試験内容の目安が高校中級程度から高校卒業程度とされており、調査対象の本科2年生の学習状況と合致するためである。なお、アンケートの調査項目は資料に示す。

2.3 実力試験による英語運用能力の調査

継続的な多読の実践が学生の英語運用能力にもたらす効果を検証するため、多読授業導入の前後の外部実力試験（ACE テスト）の結果との比較を行った。この試験は、リスニング（300点）、語彙・文法（300点）、リーディング（300点）で構成される900点満点のもので、成績はIRT（項目応答理論）分析に基づいて解析・算出される。「絶対値スコア」方式により各回の試験のスケールが一定に保たれているため、学生の英語運用能力を見る上で、この試験は信頼性の高いものだと言える。またこの試験は、中学校から高校終了程度までの学習事項が問われるため、高校生に相当する本校低学年の学生の実力を

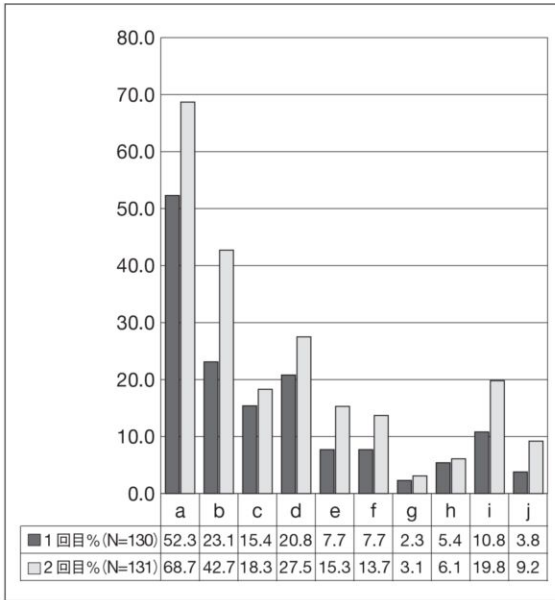
測るものとして妥当なものである。多読授業導入前（1年次）の試験は平成22年10月に、導入後（2年次）の試験は平成23年12月に実施した。

3 結果と考察

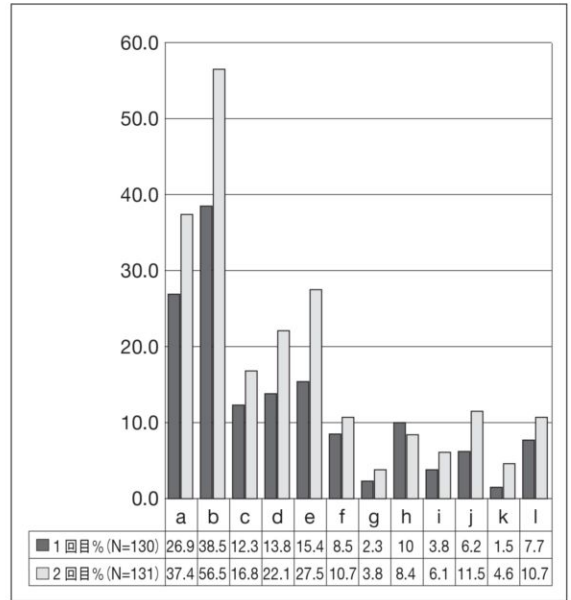
3.1 英語使用に対する自信の変化

リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングのすべての能力について、具体的にどのようなスキルを学生が修得しているのかを検証するため、「英語使用に対する自信についての調査」と題したアンケート調査を実施した。アンケートは、授業開始から約6か月が経過した平成23年10月と、授業開始から約10か月が経過した平成24年2月の2回実施し、それぞれの項目について「自信がある」という回答が全回答数に占める割合を調べた。平均的な読書量（累積語数）は、1回目の調査実施時が6万語弱、2回目の調査実施時が11万語弱であった。なお、学生は多読授業の他にも英語の授業を受講しているが、それらの授業の内容や教授法に大きな変更は加えられていない。したがって、このアンケート調査の結果は多読授業の影響を反映していると推測される。

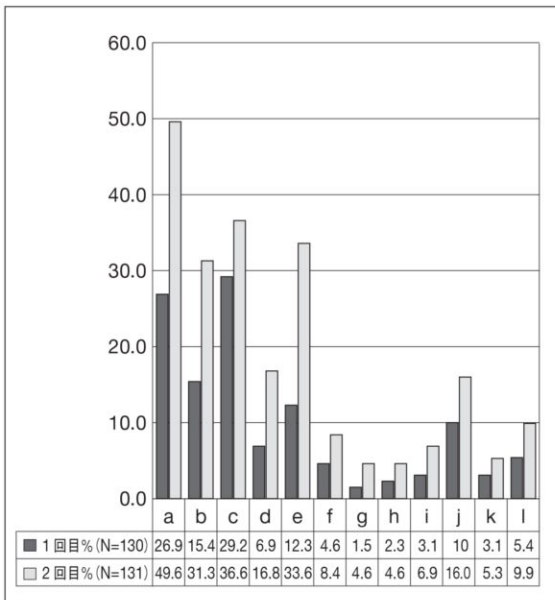
図2、図3、図4、図5に示すように、リスニングの項目(h)「簡単な内容であれば、英語で行われる授業を理解することができる」を除いたすべての項目で、1回目よりも2回目の調査において「自信をもってできる」と答えた学生の比率が高くなった。数値が大きく上昇したものとして、リーディングでは、項目(a)「外国の生活や文化を紹介する文など、簡単な説明文を理解することができる」の52.3%から68.7%、項目(b)「使用上の注意など、公共施設にあるお知らせや注意事項を理解することができる」の23.1%から42.7%が挙げられる。リスニングでは、項目(a)「趣味など、興味・関心のある話題に関する話を理解することができる」が26.9%から37.4%、項目(b)「学校など、日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いて、その内容を理解することができる」が38.5%から56.5%、項目(e)「簡単な道案内を聞いて、理解することができる」が15.4%から27.5%になっている。スピーキングでは、項目(a)「好きなスポーツなど、興味・関心のあることについて自分の考えを述べるることができる」が



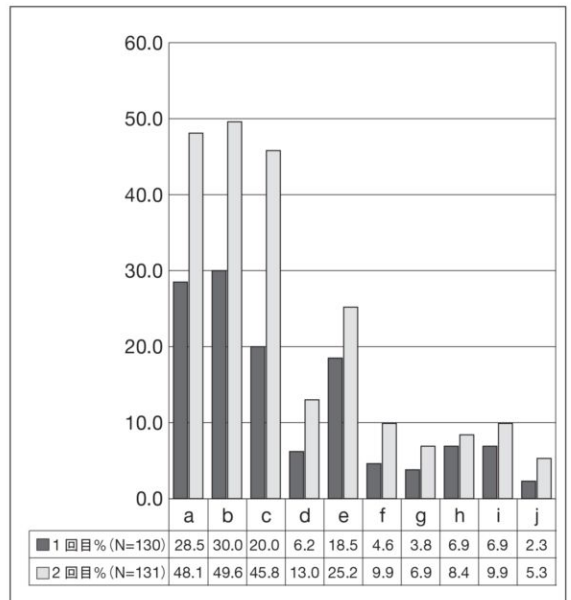
▶ 図 2：リーディングに関する自信の変化



▶ 図 3：リスニングに関する自信の変化



▶ 図 4：スピーキングに関する自信の変化



▶ 図 5：ライティングに関する自信の変化

26.9%から49.6%，項目(b)「自分の将来の夢や希望について話すことができる」が15.4%から31.3%，項目(e)「ファストフードでメニューを見ながら注文することができる」が12.3%から33.6%になっている。ライティングでは，項目(a)「自分の将来の夢や希望について書くことができる」が28.5%から48.1%，項目(b)「自分のお気に入りのものや身近なものを紹介する簡単な文章を書くことができる」が30.0%から49.6%，項目(c)「短い手紙やメールを書くことができる」が20.0%から45.8%になっている。注目すべきはスピーキングとライティングに関する

回答で，授業においてアウトプット活動を積極的には行っていないにもかかわらず，複数の項目で数値を大きく伸ばしている。

アンケート調査の結果から，多読を継続して行うことで，自分にとって身近な事柄を理解し表現することができるという，「英検 Can-do リスト」では準2級レベルに指定される活動を行えるだけの能力が学生の中で養われていったと考えられる。また，スピーキングとライティングにおいて準2級の能力に該当する項目の数値が特に大きく伸びたことから，多読がリーディングやリスニングというイン

プットばかりでなく、スピーキングやライティングというアウトプットの能力の向上にも好ましい影響を与えている可能性がある。

3.2 英語運用能力の変化

アンケート調査の結果から、学生は英検準2級レベルの活動を中心に英語使用に対する自信を高めているということが明らかになった。しかし、「自信をもってできる」という回答は、その活動を確実に行えるということを保証するものではない。多読の継続的な実践が英語力にもたらす効果を検証するため、多読授業導入の前後に本校で実施した外部実力試験の結果を分析した。

表1に示すように、平成21年度入学生までは概して、2年次に成績を低下させている。これは、本校が抱えていた中だるみの問題を反映するものである。それに対して平成22年度入学生は、多読授業を実施した2年次に45点も得点を上昇させている。また多読授業の導入以前は、2年次において1年次よりも高いスコアを獲得したとしても、実施団体が定める高校生の標準スコア（1年生で430、2年生で450）を上回ることにはなかったが、平成22年度入学生は、2年次に標準スコアを20点上回る成績を残している。

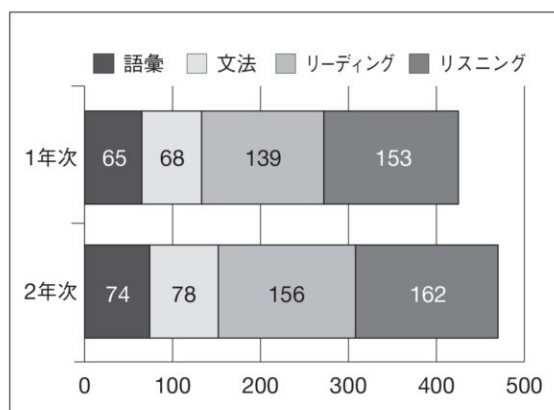
■ 表1：実力試験平均点の変化

| | 1年次平均スコア | 2年次平均スコア |
|-----------|----------|----------|
| 平成18年度入学生 | 408 | 421 |
| 平成19年度入学生 | 425 | 422 |
| 平成20年度入学生 | 410 | 442 |
| 平成21年度入学生 | 429 | 426 |
| 平成22年度入学生 | 425 | 470* |

(注) *は多読授業を実施したことを示す。

図6に示すように、平成22年度入学生の得点をセクションごとで比較してみると、すべてのセクションにおいて1年次よりも2年次に得点が増えている。参考までに平成21年度入学生の成績を見てみると、1年次の成績は平成22年度入学生とほぼ同じであったが、2年次には、リーディング以外のセクションで成績を落としている^(注7)。平成22年度入学生で2年次に多読授業を導入したこと以外には教育内容に大きな変更が加えられていないことを踏まえると、多読授業の導入が実力試験の成績の上昇に好影

響を及ぼしたと考えられる。したがって、多読の継続的な実践は、リーディングおよびリスニングの能力の向上に効果があると言えるだろう。



▶ 図6：実力試験におけるセクションごとの得点の変化

4 結び

アンケート調査において英語使用に対する自信の値がすべての分野で上昇したことから、多読の継続的な実践は、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングのすべての能力の向上に効果的であると言える。リーディングとリスニングの能力に対する多読の効果は、実力試験の結果によって裏打ちされている。アンケート調査において、スピーキングとライティングの能力に対する自信が大きく伸びるという興味深い結果が得られたが、この2つの能力の変化を測定することは本研究ではできなかった。多読がスピーキングおよびライティングにもたらす効果は、今後検証を進めるべき課題である。

多読の実践がリーディングおよびリスニングの能力の向上につながるということが、本研究において確認できた。しかし、これらの能力を伸張させるにはどのレベルの図書をどのくらい読めばいいのかという点の解明はできていない。その原因として、学生の背伸びを防ぐために教室に持ち込む図書のレベルに制限を加えていたことと、成績評価の基準として累積語数の下限を指定したことで学生の読書量が平準化してしまったことが挙げられる。多読の実践と英語運用能力の向上との相関を検証するには、学生が完全に自律した状態で読書を行える環境を整える必要がある。

アンケート調査の結果、実力試験の結果、さらに

学生の反応から総合的に判断して、継続的な多読の実践が英語運用能力の向上に効果的だと言える。しかしながら、英語使用に対する自信および実力試験の成績の向上が、多読以外の授業との相乗効果によってもたらされた可能性を否定することはできない。多読の実践が学生の英語運用能力に対して持つ効果を解明するには、学生の読書傾向の分析や多読を経験していない学生とのより綿密な比較を行なっていくことが必要となるだろう。

注

- (1) 本校の英語教育プログラムを改善するため、平成21年に「英語力向上タスクフォースⅡ」が立ち上げられ、英語教育をめぐる問題点の検討と改善のための提言が行われた。「英語力向上タスクフォースⅡ」の試みについては、高橋・天内・国重(2010)を参照。
- (2) 多読の方法については、古川(2010)、酒井(2002)、酒井・神田(2005)、高瀬(2010)を参照。
- (3) YL(読みやすさレベル)とはSSS(英語多読研究会)が考案した英文図書の難易度のことで、語彙、文法、文の長さ、字の大きさ、文化的背景などから総合的に、日本人の英語学習者にとっての読みやすさを0.0から9.9までに数値化してある。本校において多読用図書は、白(YL0.0~0.4)、ピンク(YL0.5~0.9)、赤(YL1.0~1.9)、オレンジ(YL2.0~2.9)、黄(YL3.0~3.9)、緑(YL4.0~4.9)、青(YL5.0~5.9)、色なし(YL6.0以上)という8つのレベルに色分けしてある。筆者の授業では、学生の背伸びを防ぐために教室に運び入れる図書を赤レベルのものまでに制限し、それよりも上のレベルのものを読

謝 辞

まず本研究を行う機会を与えてくださった(財)日本英語検定協会と選考委員の先生方に感謝いたします。特に助言者の大友賢二先生に厚く御礼を申し上げます。また、本研究の実施にあたり助言や激励をしてくださった徳山工業高等専門学校の先生方、多読授業に熱心に取り組んでくれた学生たちにも感謝の意を表します。

む学生に対しては個別で対応をした。

- (4) 学生は、筆者が担当した多読授業の他にも英文法や英会話の授業を履修している。多読授業の実施期間中に、学生が英文法の学習やアウトプット活動を全く行っていないというわけではない。
- (5) 授業、試験、評価の方法は豊田高専での実践に依拠しつつ、本校学生の状況に見合うように変更を加えた。豊田高専の実践については、西澤他(2011)および豊田工業高等専門学校(2011)を参照。
- (6) 「英検 Can-do リスト」については英検ホームページ(<http://www.eiken.or.jp/about/cando/cando.html>)を参照。
- (7) 平成21年度入学生は、1年次に文法70、語彙68、リーディング135、リスニング156という成績であったが、2年次には文法67、語彙67、リーディング138、リスニング153という成績であった。彼らも平成23年度(本科3年次)に多読授業を行っており、3年次の実力試験では高校3年生の標準スコアとされる470を上回る478という成績をおさめた。

参考文献(*は引用文献)

- Dunlea, J. (2009). 「英検とCEFRとの関連性について研究プロジェクト報告」.
<http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/index.html>
- * 古川昭夫.(2010). 『英語多読法—やさしい本で始めれば使える英語は必ず身につく』. 東京: 小学館.
- Krashen, S.D. (2004). *The Power of Reading: Insights from the Research*. Libraries Unlimited Inc.
- * Kunishige, T., Takahashi, A., & Harada, N. (2011). "An Analysis of the Students' Motivation for Studying English at Tokuyama College of Technology." 『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第30号. 全国高等専門学校英語教育学会. 15-24.
- * 西澤一・吉岡貴芳・伊藤和晃・長岡美晴・弘山貞夫・浅井晴美.(2011). 「英語多読が効果を上げるしくみと多読授業の成否要因に関する一考察」. 『工学教育』第59巻第4号. 日本工学教育協会. 66-71.
- * 酒井邦秀.(2002). 『快読100万語! ペーパーバックへの道』. 東京: 筑摩書房.
- * 酒井邦秀・神田みなみ.(2005). 『教室で読む英語100

万語—多読授業のすすめ』. 東京: 大修館書店.

- * 高橋愛・天内和人・国重徹.(2010). 「徳山高専における英語教育改革—『英語力向上タスクフォースⅡ』の取組みと効果」. 『平成23年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表要集』. 207-208.
- * Takahashi, A., Kunishige, T., & Harada, N. (2012). "How To Motivate Students At Tokuyama College Of Technology — An Analysis Of Their Motivation For Studying English." 『高専教育』第35号. 独立行政法人国立高等専門学校機構. 383-388.
- * 高瀬敦子.(2010). 『英語多読・多聴指導マニュアル』. 東京: 大修館書店.
- * 豊田工業高等専門学校.(2011). 『多読・多聴による英語教育改善の全学展開』. 苦学意識を早期に克服し、自律学習を継続させ、英語運用能力を顕著に向上させる新しい英語教育の展開・伸張報告書]. 吉島茂・大橋理枝他編訳.(2004). 『外国語教育Ⅱ外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』. 東京: 朝日出版社.

資料

「英語使用に対する自信についての調査」調査項目

1. 学科
2. 性別
3. 多読の累積語数
4. 読むことに関して自信をもってできること
 - (a) 外国の生活や文化を紹介する文など、簡単な説明文を理解することができる。(準 2 級)*
 - (b) 使用上の注意など、公共施設にあるお知らせや注意事項を理解することができる。(準 2 級)
 - (c) 調査結果のグラフなど、簡単に描かれた図や表から、必要な情報を得ることができる。(準 2 級)
 - (d) 時刻表を見て、目的地や到着時刻などの情報を得ることができる。(準 2 級)
 - (e) 旅行者向けのガイドブックなど、一般向けに書かれた説明的な文章を理解することができる。(2 級)
 - (f) 実用的な文章(料理のレシピなどの How to もの)を理解することができる。(2 級)
 - (g) 週刊 ST など日本語の注のついた英字新聞で、興味・関心のある話題に関する記事を理解することができる。(2 級)
 - (h) 簡単な内容であれば、講義や研修資料など、まとまった量の英文の要点を理解することができる。(2 級)
 - (i) 商品の値段やセールの情報など、簡単なチラシやパンフレットの内容を理解することができる。(2 級)
 - (j) 1 つの段落において、主題文と支持文(主張を支えるための例など)の区別ができる。(2 級)
5. 聞くことに関して自信をもってできること
 - (a) 趣味など、興味・関心のある話題に関する話を理解することができる。(準 2 級)
 - (b) 学校など、日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いて、その内容を理解することができる。(準 2 級)
 - (c) 授業や研修で、先生の指示を理解することができる。(準 2 級)
 - (d) 乗り物の出発時刻や到着時刻など、簡単なアナウンスを理解することができる。(準 2 級)
 - (e) 簡単な道案内(例: Go straight and turn left at the next corner.)を聞いて、理解することができる。(準 2 級)
 - (f) 日時の約束や短い伝言など、日常生活の身近な話を理解することができる。(準 2 級)
 - (g) 地域のイベントやセールの情報など、日常の身近な話を理解することができる。(2 級)
 - (h) 簡単な内容であれば、英語で行われる授業を理解することができる。(2 級)
 - (i) 館内放送など、公共の場でのアナウンスの重要なポイントを理解することができる。(2 級)
 - (j) 買い物で、サイズや品切れなど、店員からの簡単な説明を理解することができる。(2 級)
 - (k) 相手の学校や会社について、場所・人数・特徴などの簡単な紹介や説明を理解することができる。(2 級)
 - (l) 天気予報を聞いて、その内容を理解することができる。(2 級)
6. 話すことに関して自信をもってできること
 - (a) 好きなスポーツなど、興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる。(準 2 級)
 - (b) 自分の将来の夢や希望について話すことができる。(準 2 級)
 - (c) 自分の気持ちを表現することができる。(準 2 級)
 - (d) 集合場所や時間など、簡単な約束をすることができる。(準 2 級)
 - (e) ファストフードでメニューを見ながら注文することができる。(準 2 級)
 - (f) 簡単な表現や決まり文句(例: Hold on. や Please wait a moment.)を使って、電話で応答できる。(準 2 級)
 - (g) 欠席の理由など、日常生活の身近な状況を説明することができる。(2 級)
 - (h) 旅行など、印象に残った出来事について話すことができる。(2 級)
 - (i) 自分の学校や会社について、場所・人数・特徴などの簡単な紹介や説明をすることができる。(2 級)
 - (j) 簡単な道案内をすることができる。(2 級)
 - (k) 買い物で、店員に欲しいものや好みを伝えたり、簡単な質問をすることができる。(2 級)
 - (l) 簡単な伝言(例: Tell her to call me back. や Tell him I can't go to the meeting today.)をすることができる。(2 級)
7. 書くことに関して自信をもってできること
 - (a) 自分の将来の夢や希望について書くことができる。(準 2 級)
 - (b) 自分のお気に入りのものや身近なものを紹介する簡単な文章を書くことができる。(準 2 級)
 - (c) 短い手紙やメールを書くことができる。(準 2 級)
 - (d) パーティーの日時や場所など、簡単なお知らせを書くことができる。(準 2 級)
 - (e) 簡単な予定(例: Meet Yoko at the station at ten.)を手帳などに書き込むことができる。(準 2 級)
 - (f) 印象に残った出来事について、その内容を伝える文章を書くことができる。(2 級)
 - (g) 自分の学校や会社を紹介する簡単な文章を書くことができる。(2 級)
 - (h) 自分の住んでいる地域を紹介する簡単な文章を書くことができる。(2 級)
 - (i) 自分が読んだ本や見た映画について、自分の感想を書くことができる。(2 級)
 - (j) 友達への近況報告など、ある程度の長さの手紙やメールを書くことができる。(2 級)

(注)* ()内は、「英検 Can-do リスト」において自信をもって行えるとされる級を示している。